

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標 (抜粋)

園評価の方法について

各園、令和5年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、(1)令和4年度 当園の成果と問題点、(2)令和5年度/(3)令和6年度 当園としての努力していきたい項目を抽出して、各園の職員室と個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
令和4年度の成果・反省・改善目標	<p>以上児は遊び方にも慣れ自分の好きな遊びをじっくりと遊び込む姿があり、遊び方を自分で考え工夫する姿が見られるようになった。</p> <p>未満児は興味のある遊びを取り入れていったが、遊びを提供する形になってしまうことが多く、自主的に遊び込める環境作りの難しさを感じた。園児のしぐさや行動を見逃さず、受け止めながら言葉掛けをし、園児が遊びを見つけて遊び込めるような環境作り(人的・物的)を心掛けていきたい。</p>	<p>園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育をテーマに取り組んだ。園児の主体性については、年齢別のテーマを掲げ、保育を展開する中で、一貫性のある関わりや環境構成を深められるよう努めた。保育者の主体性についても場面によっては、全保育者が全園児に関わる積極的な姿があるが、一貫性のある関わりまでとはいかなかった。もってクラスの枠を超えお互いにもう一步踏み込んでいく必要を感じ、園児だけでなく保育者同士の風通しもよくして、園全体での交流を深めていきたい。</p>	<p>園目標をさらに19項目にして継続することで職員の意識向上につながった。</p> <p>「アクティブラーニング」の継続により、園児が伸び伸びと活動する場面やイメージを広げ表現していく姿などが増えてきた。今後はさらに遊びの創造性、展開性、連続性を楽しめるよう、またそこにSI的関わりを意識しながら、より一層「遊びの活用」が広がっていくよう、人的・物的環境構成の在り方を考えていきたい。</p> <p>基本的なことの継続や協力体制はできたが、一歩前進の心掛けや視野を広げることには個人差が大きかった。今後もクラス王国になることなく、互いの思いに寄り添いながら、園が一体となって前進を目指していきたい。</p>	<p>カメさんタイムやポカポカタイム、仏教童話などを通して、仏様の話を聞く機会をもった。保育教諭等自身が積極的に気持ちのよい挨拶を意識することで、園児が進んで挨拶をする姿が増えた。個人差はあるが無理にさせようとするのではなく、園児自ら挨拶をしようとする姿や気持ちを見逃さず、容認的に接していきたい。</p> <p>各クラスの玩具・用具置き場の環境を見直したことで、園児が自由に好きな玩具を手に取り、主体的に遊びを展開する姿が見られるようになってきた。友達や異年齢児と遊びを共有できる環境づくりへと発展させると同時に、園児の主体性を育む人的環境の在り方についても保育者間で確認し合い実践していきたい。</p>
令和5年度園目標についての評価	<p>以上児は制作遊びに夢中になる園児が多く、作りたい物を試行錯誤しながら完成させることができたという経験を通しさらに工夫して作ろうとする意欲へとつながっていた。普段の遊びの中でも工夫したり、自分が遊びたいことに必要なことを保育教諭等に伝えたりすることが多く見られるようになった。</p> <p>未満児は遊びを用意した中で好きな遊びを楽しんでいたが、園児なりに遊びを考え楽しんでいる姿があった。</p> <p>園児が今何に興味があるか見極めながら、環境を設定することが難しいこともあった。今後保育教諭等間で連携を取り合いながら自発的な遊びへとつながるように環境を整えることが大切だと反省を通じて感じた。</p>	<p>今年度も園児の主体性・保育者の主体性(共主体)の保育をテーマに取り組んだ。</p> <p>その中で、異年齢児交流【あそんでみ隊】を通して、園児だけでなく保育者同士もクラスの枠を超え、積極的で一貫性のある保育の展開や関わりが実践できた。</p> <p>しかし、場面によっては保育者間で考え方が違ったり、遠慮したりで風通しのよい職場・保育環境とまではならなかったもので、更なる共通理解のもとで、園全体資質の向上と保育者一人一人のスキルアップへとつながってきたい。</p>	<p>園目標に加え園の取り組みを14項目にして継続することで、共通の目標に向かって、協力体制で行うことができた。</p> <p>フリーデーの継続により、園児の主体性のみならず思考力や創造性、協調性、道徳性、表現など10の姿の基礎となるような具体的な姿も見られるようになった。</p> <p>今後は、主体性の芽を逃さないように可能な限り園児にまかせ見守る姿勢を大切にすること、園児の声に耳を傾けることなど、人的・物的環境づくりを努めていきたい。</p> <p>職員一人一人がそれぞれの力を発揮して保育を行うことができたが、SI的関わり合いにおいては個人差が見られた。今後は、様々な立場の職員が気持ちよく仕事をさせていただくことができるよう、真光会研究姿勢の心掛けとともに職員間でも常に意識して努めていきたい。</p>	<p>日誌の記録から園児の主体性を見出すことやクラス公開保育やエピソード検討をすることで、少しずつだが保育者の園児に対する目線や視点が変わり、自分たちの保育や関わり方を見直して意識することができた。ほんの少しの意識でも、園児の反応に手ごたえを感じることで学びも多くあったが、主体性の捉え方や園児を尊重する言葉掛けと援助、保育内容について「これでいいのか?」と迷う部分もある。</p> <p>無意識ではあるが、クラス単独の保育に偏りがちであった。また、日々の保育に連続性が欠けていることも課題である。クラス間と園全体の連携や年齢間の接続も考えた保育計画と実践について研究が必要だと感じる。</p>
令和6年度園目標	<p>『園児の思いに寄り添った保育をめざして』</p> <p>～情緒の安定を図り安心できる環境の中で、自主性・自発性・意欲を育む～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の発言やつぶやきを見逃さず、保育教諭等間で共有し合い園児の思いに寄り添った保育へとつながるようにする。 ・環境構成(人的・物的)を意識し、じっくりと遊び込んだり遊びを広げたりすることができるようにする。 <p>※特に『わくわくの日』を設定し、重点的に取り組む。</p>	<p>園児の主体性、保育者の主体性(共主体)の保育を考えよう。</p> <p>～やってみよう!が溢れ出す今町保育園～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分で見つける、自分で決める(園児を信頼し、ぎりぎりまで見守る保育) ②年齢発達に合った保育計画と、連続性のある保育実践 ③提案力・聞思力のある保育者(どうしたらいいですか?→こう考えましたが、どうですか?) ④一貫性の関わりのある保育の実践(日常保育におけるクラス・年齢の垣根を超えた交流…【あそんでみ隊】) ⑤食の楽しさを感じる食育活動(一つの食材、一つの料理→想像を膨らます→気持ち・感謝。家庭と連動した食育の推進) 	<p>「やりたい やってみたい!をおもいきり 楽しもう!」</p> <p>～10の姿」と「まことの保育」～</p> <p>天竜保育園の取り組み(15の項目)を常に意識して実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリーデーの継続により、“育ちつつある姿”を、さらに伸ばしていけるよう、今年度は「10の姿」と「まことの保育」の主題と関連性を学び、深めていく。継続のみならず、年齢に応じた環境や働き掛けの工夫を行い、より充実した時間となるように努める。 ・行事は、園児の実態を踏まえ、内容の充実を図る。 ・不適切保育やチーム保育について、全職員で定期的な確認や話し合いを行い、お互い助言し合える、意見交換ができる雰囲気づくりをする。 	<p>豊かな環境の中で、いのち、こころ、生きる力を育む</p> <p>～大いに対話して園児の主体性を育もう～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①園児の主体性を育む関わりと言葉掛け(人的環境) 園児が主体的に遊び込めるようなコーナー遊びの見直しと充実(物的環境) ②風通しのよい園づくり(全職員で全園児を・日常的な異年齢交流) ③園児を真ん中にした対話のある保育実施(ポカポカ週間・子ども会議・おとな会議)

